

コロナ禍でも

健診・がん検診を受けましょう

コロナ禍の受診控え

コロナ禍で、健診やがん検診を受ける人が減っています。

たとえば、廿日市市が行う40歳～74歳の特定健診の受診率は、コロナ禍前の平成31年度は41・4%でしたが、令和2年度は33・3%まで下がってしまいました。令和3年度は少し持ち直しましたが、36・1%（速報値）にとどまっています。

市が行っている5種類のがん検診の受診率も、ほとんどが下がりました。①胃がん検診は令和2年度は6・0%に下がりました。同じように②大腸がん検診は5・3%に、③肺がん検診は3・1%に、④乳がん検診は11・5%に、それぞれ下がりました。

ひとつだけ上がったのが、⑤子宮頸がん検診で、12・8%から13・5%になりました。

健診やがん検診をきっかけに

健診やがん検診を受ける人が減ったら、どうなるでしょうか。健診やがん検診は、気付いていない自分の病気を見つけ、治療するきっかけになります。きっかけを逃すと、病気が重くなったり、手遅れになるかもしれません。

がんに関しては、気になる調査結果が出ています。①～⑤の5種類のがんについて、平成31年度と比べて令和2年度は、新たに見つかったがん患者が全国で約8千人減ったのです。これは、がん患者が本当に減ったのではありません。がん検診を受ける人が減ったこと、そして医療機関への受診控えのため、コロナ禍でなければ発見できたはずのがん患者が8千人も発見されなかった、ということなのです。がんは、早期発見が大事な病

気です。8千人がこれからどうなるのか、今後、重いがん患者が増えないか心配されています。

コロナ以外の病気も注意

コロナ禍は3年目を迎えました。私達の生活は、少しずつ元の状態に近づいてきました。新型コロナウイルスには引き続き気を付けなければなりません。しかし、気を付けながらも、他の重大な病気に気づく機会をこれ以上先延ばしにしないことが大切です。

受診率の変化

	平成31年度 (%)	令和2年度 (%)
①胃がん	6.9	6.0
②大腸がん	7.0	5.3
③肺がん	4.7	3.1
④乳がん	12.8	11.5
⑤子宮頸がん	12.8	13.5

なるほど 健康講座

問い合わせ

健康福祉総務課 ☎@1610



吉和診療所 所長
吉川 仁 先生

佐伯地区医師会（ホームページ <http://saikima.jp/>）

佐伯地区医師会は、廿日市市・江田島市（能美町・沖美町・大柿町）で開業または勤務している医師で構成されています。日本医師会や広島県医師会と協力しながら、地域に密着した医師会として約15万人の地域住民の健康を守るため、学校医、産業医、健診、救急医療、在宅医療などさまざまな仕事をしています。